東亜同文書院記念基金会　記念賞・功労賞・奨励賞のこれまでの受賞者

第1回 平5(1993)年度 記念賞	平成5（1993）年11月5日 **上海交通大学　中日科技研究会（翁史烈（当時の上海交通大学学長）が会長）** 科学技術及び教育に関する日本の資料を中国の学生向けに刊行するなど日本事情を中国に紹介する活動を行っている。（東亜同文書院大学45期専門部卒業生吉川信夫氏は私財を投じて同会を支援した。）
記念賞	**谷光隆氏(元愛知大学教授)** 大旅行調査を研究 大運河調査報告書を刊行
記念賞	**菅野俊作氏(東北大学名誉教授 41期)** 中国人留学生を支援
第2回 平6(1994)年度 記念賞	平成6（1994）年9月16日 **林文月氏（台湾大学名誉教授）** 源氏物語他を中国語に翻訳刊行
記念賞	**栗田尚弥氏（埼玉大学講師）** 「東亜同文書院 日中を架けんとした男たち」を 刊行
記念賞	**白川正雄氏（42期）** 戦後スマトラに永住し戦火で消失したモスクを 再建
記念賞	**村上和夫氏（長野県中国文化研究会副会長）** 中国古代瓦当文様の研究を刊行
第3回 平7(1995)年度 記念賞	平成7（1995）年9月13日 **藤田佳久氏（愛知大学教授）** 大旅行調査報告書を解読し「中国を歩く」等を刊行
第4回 平8(1996)年度 記念賞	平成8（1996）年9月6日 **ダグラス・レイノルズ氏（ジョージア州立大学歴史学部副教授（注：肩書きは受賞当時））** 東亜同文書院の大旅行調査を研究し、それが戦後米国で発展した地域研究（Area studies ）よりも古い歴史を持つ優れたものであることを検証し「地域研究の知られざる起源 日本の東亜同文書院」を刊行して広く世に紹介した。
記念賞	**陳弘氏（44期）** 日中要人の会談の通訳　人民日報東京特派員として友好促進に貢献
第5回 平9(1997)年度 記念賞	平成9（1997）年10月7日 **遠山正瑛氏（鳥取大学名誉教授）** 日本砂漠緑化実践協会を設立ボランティアを指導し内蒙古砂漠に植林
第6回 平10(1998)年度 研究奨励賞	平成10（1998）年9月24日 **薄井由氏（上海復旦大学修士課程）** 「東亜同文書院大旅行初歩研究」を中国で出版し書院の業績を中国で紹介
研究奨励賞	**水谷尚子氏（日本女子大博士課程）** 書院中華学生部を研究し論文「東亜同文書院に学んだ中国人」で同学生部の業績を紹介
第7回 平11(1999)年度	平成11（1999）年9月28日

記念賞 研究奨励賞	**(テキ)新氏（上海復旦大学大学院修士課程修了　慶應義塾大学大学院法学研究科後期博士課程）** 東亜同文化の日中近代史における足跡を研究、再評価する論文を発表 **劉永誌氏（愛知大学大学院文学研究科博士後期修士課程 博士学位取得）** タクラマカン砂漠の困難な現地調査を行い、その日本語論文は辺境の地誌学的研究として高く評価された。
第8回 平12(2000)年度	平成12(2000)年9月29日 **名古屋テレビ「青春の中国」取材班** 東亜同文書院の「日中の架け橋を」という理想に生きた書院生の青春とそれを現代に受け継ぐ愛大学生の姿を生き生きとテレビで紹介
第9回　平14(2002)年度	平成14(2002)9月26日 **西所正道氏** 「上海東亜同文書院風雲録」を刊行。卒業生たちの足跡を追うことにより、東亜同文書院の建学の精神が世紀を越えて現代に生き続ける姿を広く世に紹介
第10回　平15(2003)年度 記念賞	平成15(2003)年9月24日 **工藤俊一氏** 「北京大学超エリートたちの日本論」を刊行。各方面から高い評価を得た。
第11回　平16(2004)年度 記念賞	平成16(2004)年9月29日 **今泉潤太郎氏(愛知大学名誉教授)** 「愛知大学『中日大辞典』」の編纂に長年献身的に力を注ぎ、同辞典の内外における高い評価の形成に多大の寄与をした。
第12回　平17(2005)年度 記念賞	平成17(2005)年10月7日 **大森和夫氏(国際交流研究所長)・弘子さん夫妻** 日本語教材を中国の大学に寄贈するなど日中文化交流活動を続けた。
第13回　平18(2006)年度 記念賞 奨励賞	平成18(2006)年12月8日 **テレビ宮崎** 強制連行で過酷な労働を強いられた中国人労働者を親身にかばった勇気ある日本の青年の精神と行動力のルーツを辿るヒューマンドキュメンタリーを制作放送した。 **成瀬さよ子氏(愛知大学豊橋図書館司書)** 内外のぼうだいな資料を収集整理し貴重な「東亜同文書院関係目録」を作成刊行した。
第14回　平19(2007)年度 記念賞	平成20(2008)年1月29日 **淺川義基氏** 北京国際元老テニス大会に連続２０年間出場する中で、会の推進的役割を果たし、日中友好と国際親善のために尽力した
第15回　平20(2008)年度 記念賞	平成21(2009)年1月30日 **工藤美代子氏** 著書「われ巣鴨に出頭せず」において文麿公の行動を論理的に検証したが、これは東京裁判史観を根底から覆す程の功績があった。

第16回　平21（2009）年度 記念賞	平成22（2010）年1月27日 **葉敦平氏** 東亜同文書院の上海交通大学キャンパスの占用、両校の近隣同士の友好関係などを、史実に基づき組織的に研究し、「資料選集」を編集。
第17回　平22（2010）年度 記念賞	平成23年（2011）年1月26日 **小坂文乃氏** 著書「革命をプロデュースした日本人」で、孫文に対し多大の援助を与えながら「一切口外シテハナラズ」として革命運動の隠れた援助者であった梅屋庄吉の生涯を明らかにした。
記念賞	**中日大辞典編纂所** 鈴木擇郎先生らにより計画された東亜同文書院中国語教育のシンボルともいうべき辞典編纂に長年取り組み中日大辞典第三版を刊行。
第18回　平23（2011）年度 功労賞	平成24年（2012）年1月24日 **藤田佳久氏** オープン・リサーチ・センター事業実施。東京・中日・北陸中日新聞連載「東亜同文書院の群像」執筆。
奨励賞	**武井義和氏** 「孫文を支えた日本人」出版。「中国における東亜同文書院の『資料選集』」翻訳。
第19回　平24（2012）年度 奨励賞	平成25年（2013）年1月25日 **保坂治朗氏** それまで東京同文書院の実態が幻的存在であったのを実像化した点で先駆的であり、当記念センターの書院研究で当初からなかなかアプローチ出来なかった空白部分を埋め、時代背景にも言及されつつ東亜同文書院のある種原点を解明された。
奨励賞	**有森茂生氏** 東亜同文書院関係の図書、資料文書、写真、レコードなどを2008年以来ほぼ毎年のように寄贈され、愛知大学東亜同文書院大学記念センターの展示や研究に貢献された。
第20回　平25（2013）年度 記念賞	平成26年（2014）年1月28日 **岡部達味氏（東京都立大学名誉教授、元霞山会理事）** 中国政治・中国外交を専門とした学術研究に加え、メディアを通じて我が国論壇としてリードする役割を果たされた。1997-2001年には日中友好21世紀委員会日本側座長を務められ、日中間の相互理解促進に大きく寄与された。
功労賞	**平井誠二氏（公益財団法人大倉精神文化研究所研究部長）** 東亜同文書院卒3期生大倉（旧姓江原）邦彦氏が戦前設立した大倉精神文化研究所の研究員として、同研究所の研究活動を企画運営されている。東亜同文書院関係にも強い関心をもち、多くの史資料収集を行なうとともに、機関誌『大倉山論集』に多くの研究者を動員して、その成果を集積されている。
第21回　平26（2014）年度 記念賞	平成27年（2015）年1月27日 **北川文章氏（霞山会顧問、霞山会元理事長、山一証券元副社長）** 日中間の文化交流事業、留学生交流事業、日中間の相互理解の推進に尽力されたことにより、中国上海交通大学及び浙江大学より顧問教授に任命されるとともに、揚州大学より名誉教授の称号を授与された。霞山会理事長就任時には愛知大学理事も兼任され、史実に基づいた「上海交通大学と財団法人霞山会の歴史関係に関

功労賞	する共同研究」に尽力されるなど、国際研究交流事業推進に多大な貢献をなされた。 **仁木　賢司 氏（ミシガン大学上級ライブラリアン）** 東亜同文書院関係の文献資料を精力的に取集し、ミシガン大学等の研究者へその提供および指導をされ、アメリカにおける東亜同文書院研究のベースをつくられた。2009年には「ミシガン大学の東亜同文書院およびアジア系文献史資料のグーグル化」、2014年には「書院との出会いと史資料」と題して愛知大学で講演され、東亜同文書院大学記念センター発展への期待を力説された。
第22回　平27（2015）年度 記念賞	平成28年（2016）年1月22日 **小崎昌業氏（東亜同文書院大学第42期、愛知大学第1期、元在モンゴル特命全権大使、元在ルーマニア特命全権大使）** 東亜同文書院大学の第42期生並びに愛知大学（旧制）の第1期生として、歴史的に関わりが深いこれら2つの大学の発展のために、一般財団法人霞山会を理事、また顧問として、同時に、学校法人愛知大学の監事も務められるなど、生涯を懸けてご尽力されてこられた。 また、外交官としてのご活躍、東亜同文会の昭和期の諸活動の取りまとめ、愛知大学に引き継がれた現地主義教育へのご指導など、実質を伴ったご功績を残してこられた。